

春田産業・日本圧延・パナソニック

3社で水平リサイクル

アルミ材で

春田産業（本社＝大阪市東成区、北村裕一社長）、日本圧延工業（本社＝滋賀県東近江市、磯部正信社長）、パナソニックの3社はこのほか、アルミスクラップの水平リサイクルの共同事業を開始した。春田産業が製品納入のスクラップ回収を自社トラックで同時に行い、日本圧延工業向けにリターンする。年間回収目標は40％。

工程スクラップを循環

春田産業は伸銅品や軽圧品を扱う大千非鉄製品部。これまでは日本圧延工業が製造する純アルミ系のコイル材を生産し、パナソニックエレクトロニクス社の照明器具製造の事業所向けに納入していた。同事業所で発生するアルミスクラップは外部業者に売却されていた。

スクラップ使用率は6割以上に達していた。これらを基盤に3社はスクラップリターンとして、異種金属などから起さないルールを決めてスクラップの分別・管理を行ってきた。

アルミスクラップを用いた再生地金のCO₂排出削減量は、アルミ新地金と比べて97％、再生可能エネルギーで精錬されたグリーンアルミ地金と比べて92％削減できる。さらにスクラップを定期回収する輸送が省けるため、トラックの積載率向上と物流合理化によるコストメリットが生まれ、CO₂排出量削減にも寄与できる。

パナソニックグループでは調達先と連携した温室効果ガス削減型型をつくり、CO₂削減の目標を指す取り組み「ECCOVC」を展開。本件アルミウィムスクラップ材のクロスドール

流通問屋とメーカーの協業によるアルミ水平リサイクルは業界でも先駆的な取り組み。北村社長は「当初に原料扱いのノウハウがあり、自動ラック設備や自社トラックに余力を注いでいた」と、リサイクルに強い日本圧延工業との協力によって実現できた。今後

「リサイクルによるCO₂排出量の削減と合理化」において春田産業と日本圧延工業はパナソニックオペレーションズ・エクスプレス社より2025年度のECCOVC奨励賞を受賞し、今年5日に大阪中内で表彰式が行われた。

100％回収率を達成している。3社はアルミスクラップの水平リサイクルによるCO₂排出量削減と物流合理化を検討。春田産業は伸銅品部門において削り粉スクラップのリターン材を自社倉庫経由で月間